

<落合史観を再考する>

私は歴史研究家の落合莞爾に注目し、落合氏の発信する情報（書籍、講演会、YouTube、note など）を10年以上フォローしています。なぜ、此処にきて「落合史観を再考する」のか。

落合史観は教科書歴史観と比較すると、突飛で俄かに信じがたい内容で溢れています。しかし、落合氏の経歴、知識や見識、交流する人士など様々な理由から無視できない水準である思っています。まずは受け止め、時間を掛けて熟成し観察していました。

最近、重要人物が登場し、落合史観を肯定する言論をYouTubeで発信するようになりました。その人物は元皇族の伏見宮家（本家）の分家である華頂家の華頂博一氏です。

このような状況の変化により落合史観を再考することにしました。

1) 落合莞爾とはどんな人物か

落合莞爾の情報を wikipedia で調べると

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E8%90%BD%E5%90%88%E8%8E%9E%E7%88%BE>

（転載開始）

東京大学法学部卒業後、住友軽金属を経て経済企画庁調査局へ出向、住宅経済と社会資本の分析に従事し、1968-69年の『経済白書』の作成に携わる。その後、中途入社第1号として野村證券に入社、商法および証券取引法に精通し、日本初のM&Aを実現する。

1978年に落合莞爾事務所を設立後は経営・投資コンサルタント、証券・金融評論家として活躍[2]。

1988年、紀州文化振興会(任意団体)を設立し、代表理事となる。1989年12月、友人達が開催した『平成日本の幕末現象』の出版記念パーティーで、小学生時代の恩師で後に日本画家となった稲垣伯堂と再会。これがきっかけで紀州徳川家が所蔵する東洋陶磁の図鑑作成に携わる事となった。

1995年9月、知人からの紹介で佐伯祐三真贋問題の真相究明を依頼され、吉園周蔵が遺した手記の解読に携わる。以降、古代から現代に至るまで独自の洞察による歴史観を発表し続けている。

（転載終了）

2) 伏見宮（本家）が特別な理由

既刊の著書『南北朝こそ日本の機密』のページ223に次のような記述があります。

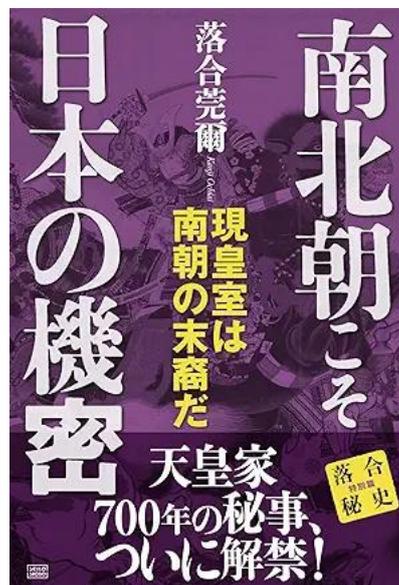
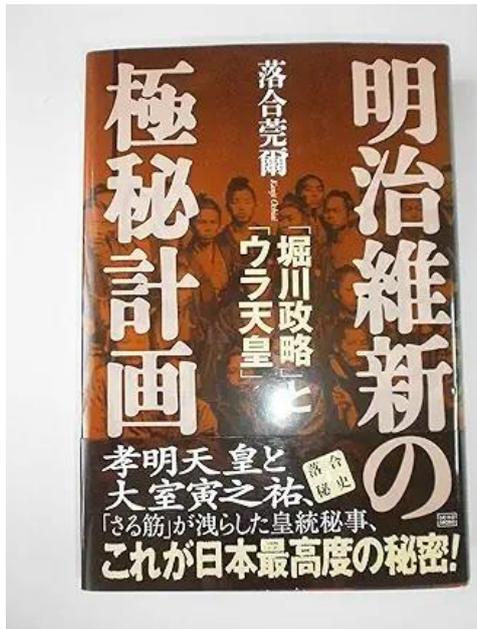
（転載開始）

四代貞常親王が兄の後花園天皇から永世伏見殿の号を勅許され、何代後にあっても親王となれる永世親王家になったのです。

（転載終了）

親王称号は、皇太子になれる男子ということです。すなわち、天皇になれるということです。

代表的な書籍



3) 華頂宮の家柄と華頂博一とはどんな人物か

華頂宮と華頂博一の情報 Wikipedia で調べると

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%AF%E9%A0%82%E5%AE%AE>

(転載開始)

自称末裔・華頂博一について

現在、YouTube や Twitter (X) で華頂博一という名義で活動している人物がいる。この人物は、自身を「旧皇族 華頂宮当主」とし、「高祖父・伏見貞愛、曾祖父・伏見博恭、祖父・華頂博信、父・博祐」と自称している[4]。しかしながら、華族令による華族全 1011 家の系図を載せた『平成新修旧華族家系大成』などには、博一自身や、博一の父とされる博祐の名前は確認できない[5]。

(転載終了)

4) 華頂博一の YouTube 発信情報を調べる

YouTube の補足欄でのプロフィール紹介は以下のようになっています。

[プロフィール]

一般社団法人日本文化振興会 副総裁

一般社団法人 既戸華頂

旧皇族 華頂宮 当主 華頂博一

高祖父：伏見貞愛、曾祖父：伏見博恭、祖父：華頂博信、父：博祐、

以下に多数ある YouTube コンテンツから特徴的なものを 2つ、3つ選んで紹介しますので、視聴してく

ださい。

華頂の部屋チャンネルより 発信：2021. 10. 30

“《皇族日本史》〇〇を見なさいと宮内庁に呼び出されました！ #22【公式】”

<https://youtu.be/BzF6C3x2Lk8?si=4vwQHyfIgKHG9nM9>

華頂の部屋チャンネルより 発信：2023. 07. 30

[祖父 華頂博信]からの教え その時は仲間が迎えに来る

https://youtube.com/watch?v=Ih8G1nLS0xI&si=WBZ15_C_MWI4ZEXT

華頂の部屋チャンネルより 発信：2023. 04. 30

【神回】自分は何者か？遺伝子に問い！落合莞爾先生から皆様へのメッセージ

対談：落合莞爾氏×華頂博一

<https://youtube.com/watch?v=zWT96PRhc6o&si=t8TG104-0vuJe-xM>

私見では、落合氏は京都皇統の舎人などを介して華頂博一氏の身分調査をしているはずですが。またYouTube 発信の内容や人品骨柄から観て本物であると思います。

文責 浅井博 2023. 11. 17